

# 優れた歴史遺産と豊かな自然を生かす。宇城地方の日本一づくり。

「くまもと日本一づくり運動」の代表選手は、中央町の三〇〇段の石段づくりですが、もともと宇城地方には、日本最大の単一拱石橋である霊台橋(砥用町)、日本最古の上水道、轟水源(宇土市)、日本三大不動尊の一つである木原不動尊(富合町)、国内最多数の方形周溝墓群である塚原古墳群(城南町)など、日本一級の歴史遺産が多くあります。

いよいよ名実ともに日本一。三〇〇段の石段づくり。「西の高野山」とよばれる霊場、釈迦院(金海山恩教寺)へ延々と続く表参道「御坂の石段」は、現在二二三〇段。この石段が本年十月には、羽黒山の二四六段を抜いて、名実ともに日本一となります。「石」の文化が今に息づく緑の仙境中央町の石段があなたを待っています。お問い合わせ先中央町役場経済一課(☎〇九六四一四六一二二二)

### 日本一のコスモス街道

氷川の両岸を埋めつくしたコスモスの花、距離にして約七キロメートルの「日本一のコスモス街道」。昭和五十二年から、住民・町内の各種団体・ボランティアの方々によって植えられたこのコスモス群は、二十万本を数え、赤・白・ピンクなど、色とりどりの花が咲き乱れています。

この日本一のコスモス街道を舞台にくくりひろげられるコスモスマラソンは、あらかじめ自分の走るタイムを宣言しておいて走るユニークなマラソン。三キロ、五キロ、十キロと三種のコースがあつて、県内はもとより、県外からも多くの人がこの風変わりなマラソンに参加します。本年も十月十三日(日)に開催さ



れる予定。あなたも、花の香うこのマラソンに参加してみませんか。参加者全員には、町内の婦人会の方々の手料理で小川特産の白玉粉を使った美味しい「だんご」がふるまわれます。お問い合わせ先小川町役場内陸上協会事務局 ☎〇九六四四三二二二



### 日本一のうまい水。

その名は、轟水源。肥後三名泉の一つで、日本名水百選にも選ばれています。この「水」は、水質にすぐれ、茶の湯の水に最適で、多くの人々に愛飲されています。古くは、宇土城下の人々の生活用水、飲料水として使用され、今、なお、日本最古の石管水道を通じ、宇土市の百二十戸の家庭を潤しています。あなたも、是非出かけて飲んでみませんか。

### 日本一づくり運動を担う人々

「くまもと日本一づくり運動」に欠かせないのがヤングパワー。地域を担う若きリーダーであり、またグループです。宇城地方では、熊本県青年塾(宇城を考へる会)、宇城青年会議所、日本一の洋ランの島をめざす「五蘭塾」といったグループを中心に、リーダーの発掘、養成が行われています。熊本県青年塾では、七月五日・六日の両日にかけて、村おこしや地域づくりに燃える全国のリーダーを迎え、青年塾主催のシンポジウムを宇土市で開き、実り多い成果をあげま



また、戸馳島(三角町)を五年後に日本一のランの島に、という思いを込めてネーミングされた五蘭塾は、他の産地に負けない花づくりをするために、勉強会を開き、洋ラン栽培を始めました。各グループとも、「日本一は人づくりから」をスローガンに掲げ、お互いに連携をとりながら、宇城地域あげての「日本一づくり」に、力強く取り組んでいます。



### 陶磁の里「幻の網田焼」を復活

精巧で格調高い作風として広く知られている網田焼。かつて細川藩の御用窯として、宇土市上網田町引之花皿山で焼かれていた磁器で、細川家の台所用品はもとより、將軍家への献上品まで作っていました。初期の作品は特に優れていますが、現存する焼物が少なく、また、資料もないため、謎に包まれた大部分が多く「幻の網田焼」として、陶芸家はもとより、愛好家達の垂涎の的となっています。大正の初期に窯の火が消え、網田焼が廃絶して久しいのですが、近年、網田焼の格調高い白磁の美を求め、再興に情熱を燃やす若き陶芸家(前田和さん四十一歳)が、網田焼発祥の地に「蒼土窯」という窯を構えました。網田焼の復活には、住民の間でも熱い期待が寄せられています。地域の活性化を図るため是非とも、陶芸の里・網田の文化を復興し、伝統の火を再燃させたいものです。